

IBM Cloud Object Storage (IaaS)

以下に記載される場合を除き、IBM Cloud の「サービス記述書」の条件が適用されます。

1. クラウド・サービス

1.1 オファリング

お客様は、利用可能な以下のオファリングから選択することができます。

1.1.1 IBM Cloud Object Storage (IaaS)

IBM Cloud Object Storage サービスは、非構造化データのために、安全で柔軟性と拡張性があるパブリック・クラウド・ストレージを提供します。Cloud Object Storage サービスは、永続性、セキュリティ、および可用性を実現しながら大量の非構造化データを保存する、費用対効果の高い手段として理想的です。Cloud Object Storage を使用して、開発者や組織は、アナリティクス、IoT、ソーシャル、コグニティブおよび IBM Cloud のワークロードに関するデータを容易に保存し、それらにアクセスすることができます。ユーザーもまた、アーカイブおよび長期のデータ保管のために、低価格のクラウド・ストレージとして Cloud Object Store を利用することができます。Cloud Object Storage を使用して、ユーザーは、「地域横断」、および「地域」のレジリエンシーを含めて、それぞれのワークロードに適切なレジリエンシーのレベルを選択することができます。ユーザーは、Cloud Object Storage の UI と API により迅速にストレージ・バケットを配置し、それぞれのデータ・ワークロード(アクティブ、クール、コールド、および動的)に適切なストレージのクラスを選択することができます。

2. データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート

このサービスに適用される「データ・シート」および本条の条件には、このサービスの使用についての詳細および条件が規定されています。これには、お客様の責任が含まれます。以下の「データ・シート」が本サービスに適用されます。

<https://www.ibm.com/software/reports/compatibility/clarity-reports/report/html/softwareReqsForProduct?deliverableId=6FFA4900DA9711E7AD0EC24C9513D95F>

3. サービス・レベルおよびテクニカル・サポート

3.1 サービス・レベル・アグリーメント

以下の「可用性 SLA」は「インフラストラクチャー・サービス」の「可用性 SLA」に代わるものです。

5 分間隔で、「内部サービス・エラー」または「サービス利用不可」のいずれかのエラー・コードが発生したサービス要求の数を、その期間内のサービス要求の総数で除することにより可用性の割合を決定します。かかるエラー・コードが付いたサービス要求は、そのエラーが IBM Cloud の「サービス記述書」に記載されている除外事項に関連する場合、またはお客様が地域間オファリングで公開された地域間グローバル・エンドポイントを使用していない場合は、除外されます。月単位の可用性の割合は、契約月における 5 分単位の可用性の割合の平均になります。

Object Storage のクラスの可用性レベル			クレジット
Standard/Flex	Vault	Cold	
< 99.95%	< 99.50%	< 99.00%	10%
< 99.90%	< 99.00%	< 98.00%	25%

お客様は契約月の末日から 60 日以内に、IBM クラウド・サポートでフォームを使用して、SLA 請求を提出しなければなりません。その際、影響を受けるストレージ・アカウントおよびストレージ・バケット、受け取ったエラー・メッセージ(日時を含みます。)、および Cloud Object Storage への接続に使用されるエンドポイント、ならびに当該請求を検証するために必要なその他の情報(IBM サポート・チケットがあ

る場合には、それに言及するもの)を特定するために十分な情報を記載するものとします。このクレジットは、契約月中に適用可能な「可用性サービス・レベル」に基づき、適用可能な最も高額な補償になり、影響を受ける当該サービスの月額料金を使用して計算されます。クレジットは、かかる月額料金の25%を超えることはできません。本SLAはIBM Cloud Object Storage オファリングにのみ適用され、Openstack Object Storage オファリングを除きます。

3.2 テクニカル・サポート

基本のIBM Cloudの「サービス記述書」に定められているサポート用語が、このサービスに適用されません。

4. 料金

4.1 課金単位

「クラウド・サービス」の課金単位は、「取引文書」に記載されます。

以下の課金単位が本「クラウド・サービス」に適用されます。

- 「API呼び出し」は、プログラマブル・インターフェースによる「クラウド・サービス」の呼び出しです。
- 「伝送されたギガバイト(GB)」は、「クラウド・サービス」との間で伝送されるデータのGB(2の30乗バイト)数です。
- 「ギガバイト-月」(「GB-月」とは、「クラウド・サービス」によって1か月で分析、使用、保管、または構成されるギガバイト(2の30乗バイト)数です。

5. 追加条件

5.1 HIPAA

「1996年米国における医療保険の相互運用性と説明責任に関する法令」(以下「HIPAA」といいます。)および本「クラウド・サービス」で「医療情報」および「医療」データを「個人データの種類」および「個人データの特殊カテゴリー」(以下総称して「医療データ」といいます。)またはそのいずれかの許可される使用に関して、本「クラウド・サービス」の「データ・シート」に記載された情報にかかわらず、本「クラウド・サービス」による「医療データ」の使用には以下の制限事項および条件が適用されます。

以下のオファリングのみが、「医療データ」の使用に関する「HIPAAプライバシーおよびセキュリティ規則」に基づいて求められる制御を実装するために実施されるプロビジョンの対象です。

- IBM Cloud Object Storage

お客様がIBMに、お客様が「クラウド・サービス」で「医療データ」を使用することを事前に通知し、IBMが書面により、「クラウド・サービス」が「医療データ」の使用のためにプロビジョニングされることを確認した場合に限り、上記のオファリングを、「医療データ」の使用に対して「HIPAAプライバシーおよびセキュリティ規則」の制御が実現されるようにプロビジョニングすることができます。したがって、「クラウド・サービス」は、HIPAAに基づいて保護されている「医療データ」の伝送、保管、またはその他の使用のために使用することはできません。ただし、(i)お客様がIBMにかかる通知を提供する場合、(ii)IBMとお客様が適用される「事業提携契約」を締結している場合、および(iii)IBMがお客様に「クラウド・サービス」を「医療データ」と併用できる旨の明示的な確認書を提供する場合は、この限りではありません。

いかなる場合も、HIPAAの意義の範囲内で医療情報センターとして「医療データ」を処理するために「クラウド・サービス」を使用しないものとします。

5.2 GDPR

一般データ保護規則、および「医療データ」の許可される使用に関して、本「クラウド・サービス」による「医療データ」の使用には以下の制限事項および条件が適用されます。

上記のオファリングに限り、お客様が **IBM** に、お客様が「クラウド・サービス」で「医療データ」を使用することを事前に通知した場合にのみ、「医療データ」の使用に対して **GDPR** の制御が実現されるようにプロビジョニングすることができます。

したがって、お客様が上記のとおり **IBM** に通知しなければ、「クラウド・サービス」は、**GDPR** に基づいて保護される「医療データ」を送信、保管、その他の用途で使用することはできません。